

-(으)ㄴ/는 실정이다

～という実情だ

好ましくない現状を報告する書き言葉です。日本語の「実情だ」に当たります。

■ つけ方

品詞	形	例
動詞	-는 실정이다	부족하다 → 부족한 (×)
形容詞	-(으)ㄴ 실정이다	부족하다 → 부족한 실정이다
名詞	인 실정이다	적자인 실정이다
後ろ	報告の文脈	現状の説明
よく組む語	아직・여전히	まだ・依然として
分かち書き	실정 は名詞	부족한 실정이다

■ 使い方と注意

好ましくない現状を報告します。예산이 부족한 실정입니다 (予算が不足している実情です)。

否定的な現状に限ります。「困った状態が続いている」という報告の文脈で使われます。日本語の「実情」も同じ傾向を持ちます。

報告書・記事の定番です。아직 -인 실정이다 (まだ～という実情だ) の形で、改善が進んでいないことを述べます。

-(으)ㄴ/는 형편이다 と近いですが、실정 のほうが客観的な報告、형편 は個人の事情に傾きます。

■ 例文

- 1 관련 예산이 크게 부족한 실정입니다.
関連予算が大きく不足しているのが実情です。
- 2 아직도 수입에 의존하는 실정이다.
いまだに輸入に依存しているのが実情です。
- 3 전문 인력을 구하기 어려운 실정입니다.
専門人材を確保するのが難しいのが実情です。
- 4 제도는 있으나 제대로 운영되지 않는 실정이다.
制度はあるものの、きちんと運営されていないのが実情です。
- 5 부품을 직접 만드는 실정이라 시간이 오래 걸린다.
部品を自分で作っているのが実情で、時間が長くなります。
- 6 지원은 늘었지만 현장까지는 잘 닿지 않는 실정입니다.
支援は増えてきましたが、現場までは十分に届いていないのが実情です。

■ 紛らわしいもの

-(으)ㄴ/는 형편이다
個人や組織の事情に傾きます。실정 は客観的な現状報告です。
어려운 형편이에요 (事情) / 부족한 실정입니다 (報告)

-(으)ㄴ/는 상황이다
中立的に状況を述べます。실정 は否定的な色があります。
복잡한 상황이다 (中立) / 부족한 실정이다 (否定的)

-고 있다
進行を示すだけです。실정이다 は現状への評価を含みます。
부족해요 (事実) / 부족한 실정입니다 (評価付き)

■ まちがえやすい点

- ✕ 좋은 실정이다
○ 좋은 상황이다
好ましくない現状に使います。
- ✕ 부족한실정이다
○ 부족한 실정이다
실정 は名詞なので分かち書きします。
- ✕ 친구야, 돈이 없는 실정이야.
○ 친구야, 돈이 없어.
日常会話では使いません。